

僕らのポップコンエイジ2016を振り返って

「僕らのポップコンエイジ」というイベントが行われるという情報を耳にした時、ポップコン世代の多くの人々の心が躍ったと思う。1970年代から80年代にかけて、多くのスターやヒット曲を生み出してきたポップコンは、惜しまれつつ1986年の大会を最後に終了。しかし、その30年後にまさか生で名曲を聴ける日が来るとは誰が想像しただろうか？

期待と不安が入り混じった気持ちで開幕した「僕らのポップコンエイジ」。予想以上に素晴らしいステージであった。今回の3公演に出演した様々なアーティスト達は、ほとんどが現役で活動を継続しているいわばベテラン・アーティストばかりである。ここに辿り着くまでの苦労や苦悩も、さらっと笑い話に出来る余裕すら感じた。誰でも知っている名曲の数々は、ただ懐かしいだけではなく、年輪を感じさせる説得力すらあった。聴いている側も、単にノスタルジックな気持ちだけではなく、「ここまでよく頑張ってきたな・・・」と、自身の人生を再確認出来た場になったのではないだろうか？

そして、コンサートの終盤に、今回出演がかなわなかったアーティストたちの楽曲がメドレーで歌われた。『大都会』『夢想花』『待つわ』そしてラストナンバー『時代』まで、歌詞を見なくても誰もが口ずさめる曲ばかりであった。この「誰でも口ずさめる曲」というのが、後世に残っていく曲だという事を今回のコンサートを通じて再確認した。ポップコンはかつて「音楽の甲子園」という異名までとったコンテストだ。その厳しい審査を潜り抜けてきた名曲の数々がこうして 2016 年現在、日本のスタンダード・ナンバーとして存在している事に改めて気付かされた。

「僕らのポップコンエイジ」は、混沌とした世の中を生きる人々に夢と勇気を与え、大人にもワクワクするという気持ちがあるんだと、改めて思わせてくれた素晴らしいイベントである。是非 1 回限りとは言わずに定番化させていただき、「僕ら」に生きるパワーを与えて欲しい。

TEXT：長井英治